

「雪あられ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「雪やこんこ、あられやこんこ・・・」と童謡にも歌われる「あられ(霰)」には、大別して2種類ある。一つは「氷あられ」と呼ばれるもので、簡単に言うと、「小粒のひょう(雹)」と思えば良い。天気記号でも「氷あられ」は△、「ひょう」は▲で表される。もう一つが「雪あられ」だ。これは雪と氷あられの中間のような存在で、雪の結晶に小さな氷の粒がくっついて、太ったもの・・・といったイメージだ。天気記号(大気現象記号)では ☄ と表される。記号でも雪とひょうの中間のような存在とわかる。



地上に落ちた雪粒が「雪」なのか「雪あられ」なのかを判断するのは難しい。かなり拡大して見ないと、雪の結晶そのものなのか、雪の結晶に氷の粒がついたものなのか区別が難しいからだ。しかし、この日ベランダに落ちていた粒は、一見して「雪あられ」とわかるものが多かった。写真の中央に写っている大きな結晶は、もともとは「樹枝六花」だったと思われる。その結晶を中心に、雲の中で過冷却状態だった「雲粒」がくっついてこのような姿になったのだろう。中谷の言う通り、まさに「天からの手紙」と言える。雪あられは、普通の雪よりも硬いので、あられが降る時は、ザーッと音がすることが多い。



雪の結晶が多様なように、雪あられの結晶もいろいろな姿がある。中にはクリスマスツリーのような形のものも見られた。



雪の粒と同じように、雪あられも陽の光に弱い。この日も朝日が射してすぐに融けると思ったが、気温が低かったので、撮影をする余裕があった。



朝日を浴びた雪あられの結晶は、より立体感が協調され、美しかった。気温が低いといっても融けるまで10分ももたない。私は急いで何枚も撮影した。